

センター月だより

指導日誌より

= 瑞浪地区 =

駅前では部活帰りと思われる男子高校生 4 人に、寒いから早く帰るように声をかけた。(3/7 瑞浪 B)

雨のため、車で巡回する。人影は少なかった。バロー裏 19 号地下通路に放置自転車が 2 台あった。交番へ戻り報告した。(3/13 土岐 D)

3 年生が卒業し人数が減ってさびしい感じであるが、生徒会も 2 年生が中心となり元気に朝のあいさつをしていた。最高学年としての自覚を持って頑張っていた。先生も 7 名参加されていた。(3/18 陶 E)

駅前で、バサラのチーム「舞や」が踊りの練習をしていた。街で声をかけると、子どもたちや大人の方も皆あいさつを返してくれた。(3/25 瑞浪 A)

春休み中で駅周辺には、学生・若者の人影はなかった。駅前で踊っている若者もいなかった。バロー裏 19 号地下通路は、吸い殻 カップラーメン菓子の袋 壊れた傘 割れた電球などが散乱していたので、ゴミを拾った。落書きは無かった。(3/27 日吉 I)

= 土岐地区 =

下校時の活動で、信号待ちの間、「寒いね。」「今日は歩いて帰るの？」などあいさつ以外の会話ができて、楽しい雰囲気でも声をかけた。(3/4 鶴里 4)

塾帰りの小学生が一人で立ち止まって、学校で作った理科の実験道具を動かしていた。話を聞いて、家に帰ってからやるように話した。(3/14 妻木 3)

中学生の下校時刻に合わせて活動した。雨が降った後であったため、「気を付けて帰るんだよ。」と声をかけると「ハイ。」と気持ちの良い返事をしてくれる子がたくさんいた。(3/18 曾木 5)

春休みに入ったので主に公園を巡回したが、夕方 5 時台でも子どもたちにはあまり出会わなかった。遊んでいた 2 人の男子中学生と 2 組の親子連れに声をかけ、どの子も明るく応じてくれた。(3/19 特 A)

二十歳過ぎだが、駅前のタクシー乗り場付近でタバコを吸っていた男性に、健康に悪いので数を少なくするように伝えたとこ、タバコを消して吸い殻を片づけてくれた。下校中の女子高生に気を付けて帰るように声をかけると、「ありがとうございます！」と明るい返事が返ってきた。(3/20 特 B)

3 月 声かけ活動の結果

| | 多治見地区 | 瑞浪地区 | 土岐地区 | 合計 |
|--------|-------|------|------|-----|
| 指導人数 | 4 | 0 | 0 | 4 |
| 声かけ人数 | 494 | 178 | 197 | 869 |
| 指導員参加者 | 62 | 32 | 35 | 129 |

= 多治見地区 =

男子中高生 3人が、公園で菓子を食べていた。片付けておくように声をかけると、「はい」と返事をするが一向に片づけず。再度、声をかけると3人とも逃げて行ってしまった。(3/4 小泉 5)

駅前で部活帰りの高校生に声かけしたが、あまり挨拶が返ってこず残念だった。(3/8 共栄 3)

自転車の男子小学生に、ヘルメット非着用の注意をしたところ、すぐにかぶり「ありがとうございました。」と返事をしてくれた。とてもさわやかでした。(3/10 池田 6)

駅にいた高校生らしき若者に声をかけると、みなあいさつを返してくれた。(3/11 精華 2)

ピアゴ多治見店ゲームコーナーのスタッフの方の話では、最近女子中学生が飲食コーナーで化粧をする姿が見られ、長時間居座るため他のお客さんに迷惑をかけているとのことでした。(3/11 南姫 9)

養正小児童がさわやかにあいさつしてくれた。毎回公民館前で言う声かけが定着してきた。高校生は試験中で出会わなかった。雨の為車で移動し、危険個所がないか巡回した。(3/20 養正 1)

交流センターやバロー、オンセント等で小中学生に声をかけた。笑顔であいさつしてくれる高校生も多く、気持ちよく巡回できた。(3/20 根本 10)

駅前周辺を巡回。高校生は皆元気な様子で、声かけしようとする就先にあいさつしてくれた。街全体が落ち着いている感じがした。(3/20 脇之島 12)

与える人が豊かな人

ひとこと

たくさん持っている人が豊かなのではなく、たくさん与える人が豊かなのだ。

ひたすら貯めこみ、何か一つでも失うことを恐れている人は、どんなにたくさんの物を所有しようとしても、心理学的に言えば、貧しい人である。

気前よく与えることのできる人が、豊かな人なのだ。

『愛するということ』(エーリッヒ・フロム)より

センターから

今年も桜の花が一斉に開き、子どもたちが入学式や新しい学年を迎え、卒業した若者が社会へ巣立っていく4月になりました。この時期、子どもたち・若者たちの心の中は、新しい学年、新しい社会への期待と不安が入り交ざった複雑な気持ちだろうと思います。「ワクワク！ドキドキ！」といったところでしょうか。多少の戸惑いはあってもそんな時期を乗り越えて、子どもたちが成長して自分の場所を見つけてくれることを願わずにはおれません。

こんな時期こそ私たち、まわりの大人が彼らをきちんと見守っていくことが大切です。大人には少し早めに生まれた先輩としてその務めがあります。ただ、お節介になってはいけません。彼らが困った時、脱線しそうになった時、その時に助ける。話を聞いて支える。彼らの自立を後押しする。そんなことができれば素晴らしいと思います。「見守る」とは辞書によれば、「目をはなさないで見る。間違いや事故がないようにと、気をつけて見る。」ということです。

さて、指導員さんの任期は4月までです。25年度で退任いただく方には、これまで毎月の声かけ活動にご尽力いただき、本当にありがとうございました。これからも地域の大人として、子どもや若者たちの見守りをよろしくお願いいたします。

新年度も続けてお努めいただける方には、引き続き今後ともよろしくお願いいたします。

お知らせ

センター職員の異動はありません。宮嶋所長、柴田、坂井の3名です。よろしくお願いいたします。